



養老町都市計画マスタープラン 概要版



令和2年3月
養老町

〔都市計画マスタープランとは〕

都市計画マスタープランは、住民参加のもとに市町村自らがまちづくりのビジョンを確立し、将来像やまちづくりの目標を実現するために土地利用や都市施設の方針等を明らかにする計画であり、まちづくりの長期的・総合的な指針としての役割を果たします。養老町においては、2005年3月に現行計画を策定し、都市計画を進めてきました。

今回、現行計画が計画期間である概ね10年が経過し、上位計画が見直しの時期を迎え、養老SAスマートIC・養老ICの開通、少子高齢化、人口減少社会の到来などの社会情勢が大きく変化したことに対して、養老町が持続的に発展していくためには、魅力的なまちづくりが求められています。

そこで、新たに都市計画・まちづくりの方針を明らかにするべく、目標年次を2040年とし、養老町都市計画マスタープランを改定することとしました。

〔将来像〕

「養老公園」や「焼肉街道」などの養老町らしさを大切にしつつ、集約型都市構造の形成により快適な住環境の確保や、養老SAスマートIC・養老ICの開通による立地ポテンシャルを活かした活気に満ちたまちを目指すものとし、以下のとおりとします。

地域性を大切にする快適で活気に満ちたまち 養老

〔まちづくりの目標〕

活気に満ちたまちづくり

養老SAスマートIC・養老ICの開通による立地ポテンシャルを活かして、養老SAスマートIC・養老IC周辺での産業拠点の整備を推進するとともに、製造業などの既存工業の振興や、運輸業などの新規産業の立地誘導を図ります。

また、幹線道路沿道については、自動車交通に対応した商業環境の形成を進め、産業振興を図り、「活気に満ちたまちづくり」を進めます。

地域性を活かしたまちづくり

自然を感じることでできる養老山地、象鼻山や養老公園、特産である食肉産業を活かした焼肉街道などの観光地としての魅力の向上や、観光地周辺での受入環境の整備を進めます。また、養老IC周辺では、観光客向けの商業環境を整備するため、食肉産業施設や農業加工施設、農家レストランなどの6次産業施設や道の駅の誘導も図ります。

これらにより、地域の特性を最大限に活かしたまちづくりを進めつつ、インバウンド需要に対応した、「地域性を活かしたまちづくり」を進めます。

快適に住み続けられるまちづくり

無秩序な市街地の拡大を抑制することを前提として、中心市街地である高田地区については、空き地・空き家を利活用し、市街地の再生を図ります。その他に、公共交通の確保された養老駅・烏江駅周辺では、市街地を維持・誘導していきます。

また、高齢者にとっても過ごしやすいまちを目指し、自動車交通に依存した状況からの脱却を目的として、シームレスな公共交通ネットワークの形成を図り、「快適に住み続けられるまちづくり」を進めます。

〔将来都市構造〕

■将来都市構造の構成要素

ゾ ン	中心市街地ゾーン	美濃高田駅周辺の高田地区を中心市街地ゾーンと位置づけ、中心市街地としての機能の再生を図ります。
	駅周辺の市街地ゾーン	養老駅・烏江駅周辺を駅周辺の市街地ゾーンと位置づけ、駅はバス等の交通機関が集まる交通拠点となることから、駅周辺の市街地を維持・誘導します。
	農業及び集落ゾーン	旧来からの農村集落の既存ストックを活用して、既存集落を維持します。

拠 点	交通拠点	養老鉄道の駅のほか、自動運転を見据えてファーストワンマイル・ラストワンマイル [※] 用の交通機関の乗り換えの場所として、大型商業施設の駐車場等を交通拠点として位置づけます。
	観光拠点	年間100万人を超える観光客が訪れる養老公園や象鼻山を養老町の観光拠点として位置づけ、周辺の地域も含め、観光地としての魅力の向上を図ります。
	産業誘導拠点	養老SA スマートIC・養老IC周辺は、将来的に広域的な交通動線の結節点となることから産業誘導拠点として位置づけます。立地ポテンシャルを活かした製造業の拠点、流通上のハブとしての役割を果たします。

軸	観光軸	(主)南濃関ヶ原線の北部沿道は、養老町の特産である食肉を活かした焼肉の名店が多く立地している焼肉街道を観光軸に位置づけます。また、インバウンドを見据えた受入環境の充実を図り、更なる集客力の向上を図ります。
	産業誘導軸	一般国道258号や(一)養老平田線沿道を産業誘導軸と位置づけます。産業誘導拠点と同様に立地ポテンシャルを活かした製造業の拠点、流通上のハブとしての役割のほか、自動車交通に対応した近隣住民に魅力的な商業環境の形成、観光客向けの6次産業施設や道の駅の誘導を図ります。

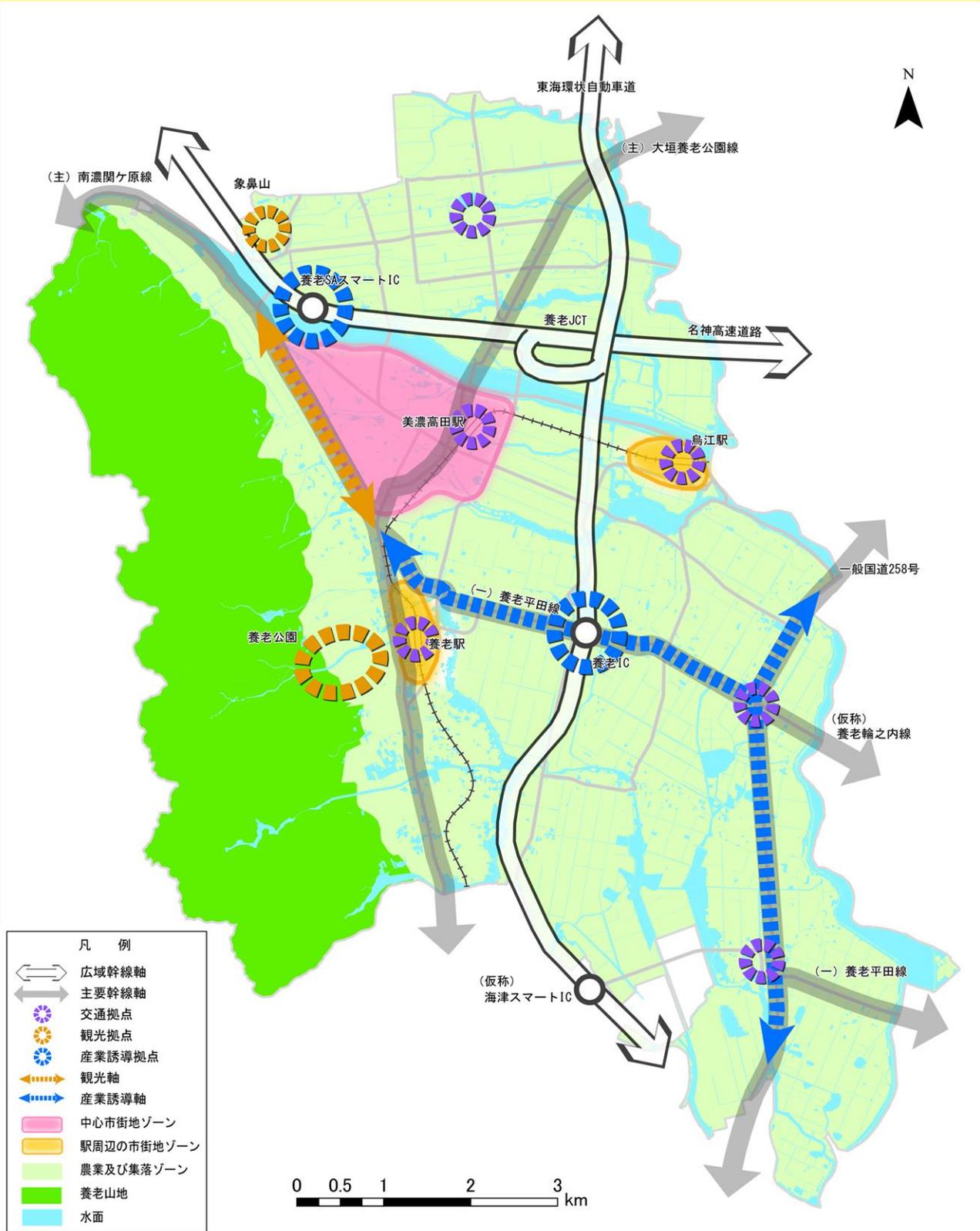
交 通 軸	広域幹線軸	広域の地域間を連携する道路として、国土軸である名神高速道路及び東海地域の環状線である東海環状自動車道を位置づけます。
	主要幹線軸	都市機能の配置と連動する道路として、桑名市や大垣市に連絡する一般国道258号、養老ICのアクセス道路である(一)養老平田線、養老公園・高田地区や一般国道21号方面に連絡する(主)大垣養老公園線、関ヶ原町や海津市に連絡する(主)南濃関ヶ原線、その他に輪之内町に連絡する(仮称)養老輪之内線を主要幹線軸と位置づけます。

※ファーストワンマイル・ラストワンマイル：自宅から交通拠点（公共交通の乗降場所）、交通拠点から自宅までの道のり

■将来都市構造の考え

基本的には、無秩序な市街地の拡大を抑制したうえで、中心市街地では市街地の再生を図り、公共交通の確保されたゾーンである養老鉄道の駅周辺の市街地を維持・誘導するとともに、すべての住民が住みやすいと感じることのできる、集約型都市構造を目指します。

■将来都市構造図



〔地域別構想〕

■地域区分

養老町都市計画マスタープランが、より住民にとって身近なものとするために、地域ごとにまちづくりの方向性を設定しました。

地域区分は、地域的なつながりに留意し、上位・関連計画と整合を図りつつ、町域を右図に示す「北部地域（アオ）」「南部地域（オレンジ）」「養老地域（ミドリ）」の3地域としました。



■北部地域

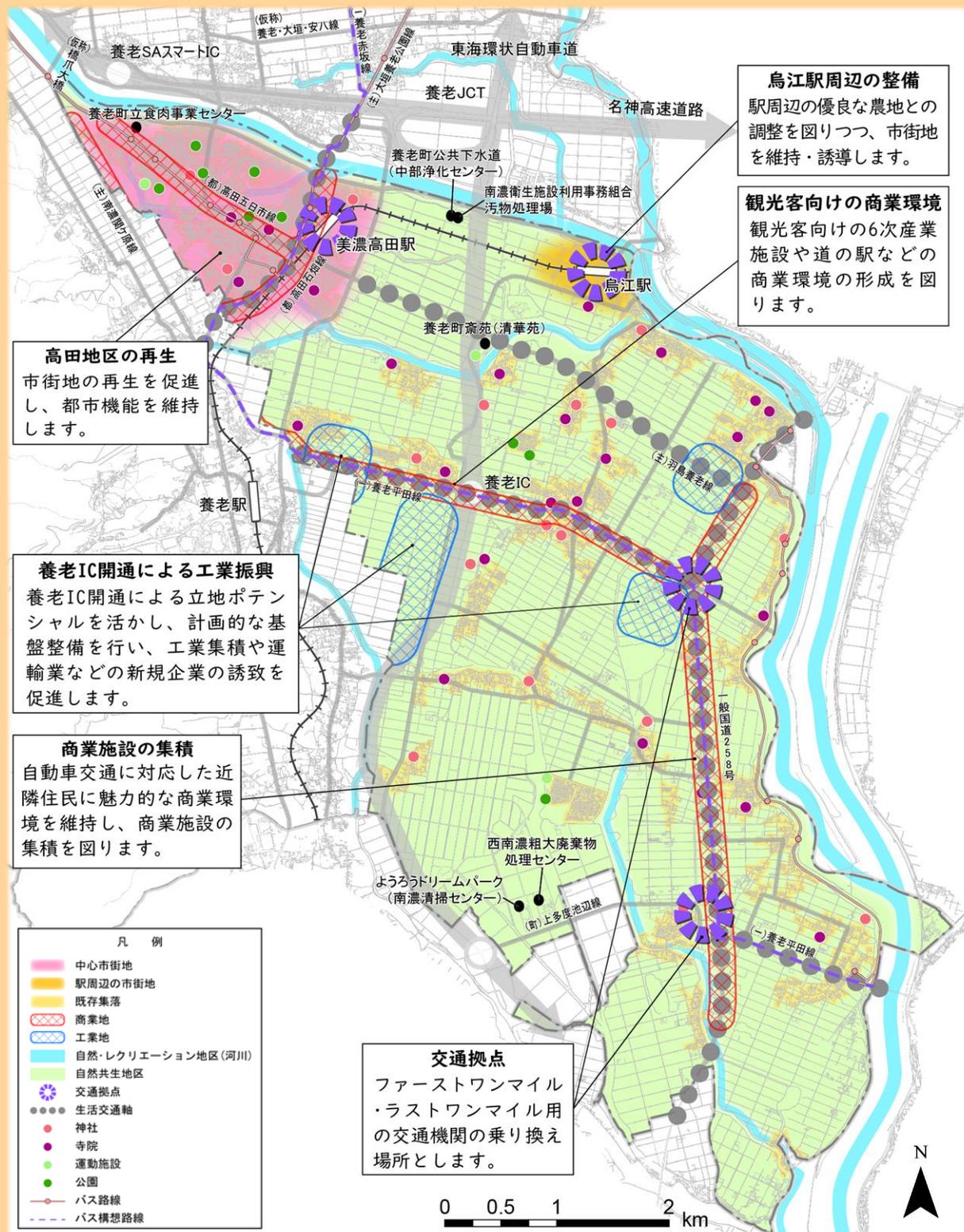
水と緑に囲まれた商・工・農の調和したまち

北部地域は、牧田川・杭瀬川や象鼻山をはじめとした水と緑からなる豊かな自然を有しており、各地に既存集落がみられます。養老 SA スマート IC 開通により立地ポテンシャルが向上したことで、工業集積や運輸業などの新規産業の企業誘致、(一)養老赤坂線沿道の商業環境の整備により産業振興を図り、商・工・農が調和したまちを目指します。



賑わいのある中心市街地と緑豊かな田園が共存するまち

南部地域は、養老町の人口の約6割が居住しており、特に高田地区は中心市街地としての都市機能を有しています。しかし近年では、人口減少が進行していることから、都市としての機能を維持する必要があります。また、南部の大巻地区など広大な田園も広がっていることから、高田地区の賑わいのある市街地と大巻地区などの田園が共存するまちを目指します。



■養老地域

歴史・文化の息づく誇りある観光のまち

養老地域は、観光客数年間 100 万人超を誇る養老公園や、養老町の特産である食肉を活かした焼肉街道などの観光地を有しています。西部には広大な養老山地が広がっているほか、柏尾廃寺跡などの県指定文化財があります。これらの歴史・文化資源を活用し、養老町の観光地としての魅力の向上を図るとともに、自然環境や景観を維持・保全し、誇りあるまちを目指します。





養老町都市計画マスタープラン

養老町 産業建設部 建設課

〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田 798

TEL 0584-32-5081